

「第15回 北東アジア天然ガス・パイプラインフォーラム国際会議」参加報告

ERINA 調査研究部研究員

南川高範

石炭に比べると天然ガスの二酸化炭素排出量は6割程度といわれており、そのことから、天然ガスにクリーンエネルギーとしての評価がなされるようになってから久しい。二酸化炭素排出に対する国際的な意識が高まる中、環境負荷の低いエネルギーによる経済成長の実現について、国民一人一人が意識していくことは重要であり、そのために、日本への天然ガス供給の現状がどのようなものであるかを把握することは、重要である。2018年10月4日と5日にサンクトペテルブルグ（ロシア）のエクスポフォーラムで開催された「第15回北東アジア天然ガス・パイプラインフォーラム国際会議」は、北東アジア地域における天然ガス資源の効率的な活用と、エネルギー協力を軸とした国際協力を目的として議論の場を提供する国際会議である。この会議は、10月2日から開催された「サンクトペテルブルグ国際ガスフォーラム」の一部として開かれたものであり、多くの報道関係者や専門家の注目を集めた。この会議には、ERINA から新井調査研究部長・主任研究員と筆者が参加した。

初日の午後より「サンクトペテルブルグ国際ガスフォーラム」全体会合が開かれ、そこでガスプロム社長アレクセイ・ミレル氏が登壇し、各国の会議参加者を迎えた。

会議は大まかに全体会合、第1セッション、第2セッションと分科会形式の第3セッションのあと閉会の辞という流れで進められ、それらは全てパネルディスカッション形式で進められた。第1セッションでは、「北東アジアの天然ガス市場の現況とこれか

らの5年」と題して4名の専門家の報告がなされた。その中で、中国のガスパイプラインについて報告をした中国石油経済技術研究院単衛国氏は、現状で天然ガスの国際価格が頭打ちになっているという背景のもとで、中国のガス需要増加の現状を示し、ガスパイプラインの改革の必要性について言及した。単氏は、今後の5年間について、中国のガス需要には不透明さが残り、政策的な調整が必要となる点、供給側については、液化天然ガス（LNG）受入基地の建設が加速しているなど、供給能力拡大の余地はまだあるという点について示した。またこのセッションでは、他にロシア、韓国、日本からの参加者がそれぞれの国の現状について報告を行った。ロシアでは、ガス市場の独立性を含む市場の整備が重視されているという点、韓国では、ガス価格が石油価格と連動して推移するという点、日本からは、エネルギー基本計画に準拠して、エネルギーミックスの現状と見直しについての報告がなされた。

5日の午前の第2セッションでは、「北東アジア天然ガス輸送と利用の国際協力プロジェクトに係る課題」と題して、多国間に亘る話題を対象とした議論が進められた。その中で、笹川平和財団理事長の田中伸男氏は、この地域のエネルギー協力の前提条件として、米国の石油・ガスの供給力の増加、太陽光を含むクリーン（報告ではグリーン）エネルギーの技術の発展、中国の一路構想とそれに伴う中国における経済全体の電化とガス輸入の増加という変化があることを示した。また田中氏

は、そうした点を背景に、この地域の協力の方向性として、日本とロシアの間のパイプラインの建設、「アジアスーパーグリッド」、「アジアスーパーリング」といった潜在的プロジェクトが存在することを提示した。「アジアスーパーグリッド」とは、北東アジアから、東南アジア、インドに至るまでの主要国の送電線を結び、効率的な電力供給を行おうという計画である。また、「アジアスーパーリング」は、「アジアスーパーグリッド」の中で、北東アジア部分を結ぶ日本、中国、韓国、ロシア、モンゴルを結ぶ送電線の連結を意味する。「アジアスーパーリング」あるいは「ゴールデンリング」とも呼ばれるこの構想は、特にモンゴルの風力発電のようなクリーンエネルギーの活用を重視している。さらに、ロシアとの関係が動きつつある今こそ、日本がロシアとパイプライン協力を行うよい機会であることを田中氏は強調した。このセッションでは、この報告以外に、中国、韓国、ロシアから計7本の報告が行われ、各国からの参加者が独自に協力の展望を持っていることを示した。

第3セッションは、2会場に分かれて行われ、筆者が参加した会場では、「北東アジアのガスパイプラインプロジェクト」と「LNGプロジェクト」という2つのテーマの分科会報告が行われた。この他に別会場では、「天然ガス開発とその利用に関する新たなプロジェクトと技術」というテーマの分科会が開催され、各国企業から様々な技術・製品等の紹介がなされた。ガスパイプラインプロジェクトに関する分科会では、中国、韓国、ロシアからの報告者が、「シベリアの

力]ガスパイプラインプロジェクトの現状、朝鮮半島のガス安全保障とパイプラインプロジェクトの展望についての報告、ロシアを中心とした電力市場の発展の必要性についての報告を行った。2つ目のLNGに関する分科会では、サハリン2トリン3のLNGプロジェクトの概要や、韓国のLNGプロジェクトにおける国際市場の変化、特に米国の要因が重要であることの指摘と、ロシアのミニLNGプラント施設の紹介が行われた。

2日間の会議の中で、参加者は、日本、中国、韓国とロシアの4カ国によるエネルギー協力や、エネルギー安全保障についての現状と展望について議論を深めた。特に、この会議のテーマが天然ガス、パイプライン協力という特定の分野に関するものであったことから、より真に迫った、現実的視点からの意見交換がなされていたという印象を持った。また、展望については、政治的な困難さも加味しながら、非常に大

きな目標を想定した計画を論じていることも、天然ガスやエネルギーという国の根

幹を支える話題についての会議であることを筆者に実感させた。

会議冒頭



(出所) 筆者撮影